

平成 26 年度

社会福祉法人

安曇野市社会福祉協議会

事業報告書

■ 実施期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日



社会福祉法人 安曇野市社会福祉協議会

目次

社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会

26 年度事業報告書

I 理念・基本方針・ビジョン	2
II 26 年度のトピックス	3
III 重点テーマの振り返り	4
IV 各課の事業報告	
1 地域福祉課	5
(1) 「支えあいのかたちをつくる」事業	6
(2) 「お互いのふれあいを広げる」事業	12
(3) 「個を支える」事業	18
(4) 「支える人を支える」事業	30
(5) 地域福祉事業における自主財源の確保	37
2 介護・事業課	38
(1) 高齢者支援事業	39
(2) 障がい者支援事業	44
(3) その他の事業	51
3 総務課	55
(1) 人事	57
(2) 財務	60
(3) 情報マネジメント	61
(4) リスクマネジメント	62
(5) その他データ	63

I 経営理念・基本方針・ビジョン

経営理念

支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野

基本方針

- 1 私たちは、住民の声に耳を傾け、時代とニーズに即した効果的な事業を展開します。
- 2 私たちは、常に住民の立場に立ち、その人権を尊重します。
- 3 私たちは、多くの諸機関・諸団体と連携・協働し、広域的なネットワークを構築します。
- 4 私たちは、専門職としての自覚と責任を持ち、常に資質の向上に努めます。
- 5 私たちは、開かれた組織づくりと健全な経営に努め、組織の基盤強化を図ります。

ビジョン

地域福祉課	住民一人ひとりが主体となり、「子どもからお年寄りまで誰もが安心して暮らせるまちづくり」に取り組むしくみをつくり、次世代につなげます。
介護・事業課	どんな病気や障がいがあっても、できることを活かし、住み慣れた地域で自律した暮らしが営めるような支援の環境をつくれます。
総務課	全ての職員が理念の実現に向けて健康的に、安心して、やりがいを感じながら、互いに高め合い、気持ちよく働ける組織をつくれます。

◆スローガン

思いやりの心を大切に、すぐだせ・知恵だせ・元気だせ

II 26年度のトピックス

介護予防・生活支援事業の検討開始

前年度2月から

地域包括ケアシステム構築には地域の支えあいが必要になります。社協事業としての取り組みと地域への働きかけを一体的に行うため、課を超えたプロジェクトチームを立ち上げ、検討を続けています。

第2期地域福祉活動計画スタート

4月

第1期の地域福祉活動計画に新たな生活課題の解決を「補完」しながら、平成25年度末に「第2期地域福祉活動計画」が64名の策定委員の皆様により策定されました。今期は地区社協活動の推進や「ふれあい・いきいきサロン」の充実を図ることに重点を置いています。

社協の人材育成システムを策定

4月

社協の人材育成における基本方針を定め、私たちがめざすべき職員像「社協人^{マン}」及び社協人に求められる能力・態度が明らかにされました。社協人には法人内外の多様な社会資源と「効果的なチームプレー」を展開できる人材が求められています。

東日本大震災復興支援バスパックに32名参加

7月

7月19、20、21日の3日間、3年前にボランティアで瓦礫の撤去等を行なった岩手県大槌町・山田町を再び訪れました。被災地の今を見・聴きする中で、災害発生時は勿論、その後の継続的な地域支援の大切さを学び、報告会等を通して参加者及び職員で共有しました。

「将来構想と10ヵ年戦略」草案検討開始

9月

平成25年度実施の「職員全員参加ワークショップ」等を経て、長期計画の草案検討が始まりました。今後も走りながらの策定作業が続きますが、年度内には「10年後のビジョン」及びビジョン達成に向けた「基本戦略」とのセットで経営会議に諮る予定です。

Ⅲ 26年度重点テーマの振り返り

	重点テーマ ▼	振り返り ▼
法人全体	「将来構想と10ヵ年戦略」を策定します。	8月に草案が作成され、9月から検討が開始されました。

【地域福祉課】 ▶▶ 第2期 地域福祉活動計画の推進 振り返り▼

「支えあいのかたちをつくる」事業	地区社協の充実を支援します。	支部運営会や地区社協会長会等を開催し、情報交換等による活動推進を後押ししました。
「お互いのふれあいを広げる」事業	住民がつくるふれあいの場「いきいきサロン」の拡がりを支援します。	サロンの担い手となる「地域の世話やきさん」のスキルアップ講座を開催しました。
「個を支える」事業	社協の「総合相談支援窓口」を普及させます。	相談件数が全体的に増えてきています。
「支える人を支える」事業	学校と地域が連携し、互いの福祉学習の場を広げます。	学校での福祉学習の場が、地域の施設等へ広がりを見せています。

【介護・事業課】 ▶▶ 地域包括ケアシステム構築の推進 振り返り▼

高齢者支援事業	経営を安定化させます。	積極的な受け入れによる利用率アップを目指していますが、十分な成果は出ていません。
障がい者支援事業	「ま・めぞん」を軌道に乗せます。	販売収入、工賃支払額とも目標に達しませんでした。
その他	地域福祉課と協働で介護予防・生活支援事業の社協プランを提案します。	方向性の確認ができましたので、具体的な事業の細部の検討を進めます。

【総務課】 ▶▶ 法人組織と人事制度の見直し 26年度の振り返り▼

人事	人材育成システムをスタートし、就業規則を見直します。	左記システム施行後、管理者研修を開催しました。就業規則見直しは長期計画策定後です。
財務	新会計基準への移行準備を完了します。	進捗状況は良好。区分設定、規程変更の草案を作成し、部門管理者の勉強会を開催しました。
情報マネジメント	社協HPのあり方を検討します。	トップページを中心にリニューアルしました。
リスクマネジメント	「労働安全衛生マネジメントシステム」を推進させます。	「安全衛生管理指定事業所」に指定され、労基署の指導を受けながら推進中です。

IV 各課の事業報告

地域福祉課



「第2期地域福祉活動計画」説明会 各地で開催される



社協は「地域福祉活動計画」を基本に、住民の皆さんと地域づくりを進めます。

【支えあいのかたちをつくる】事業

日常生活を営む小さな生活圏域の中にこそ、日頃の困りごとに「気づき」「共に考え」「お互いに助け合える」関係が必要ではないでしょうか。

【支えあいのかたちをつくる】事業は、支部社協及び地区社協が中心となり、「地域福祉活動計画」に基づいた活動を住民が主体となって展開しています。社協は「黒子」となってこれらの活動を支援してきました。



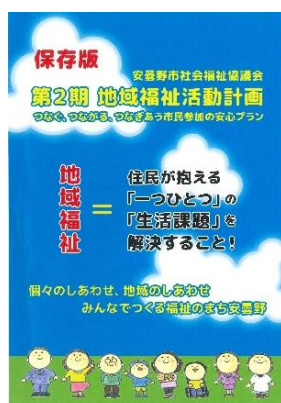
まずは、顔の見える関係づくりから！（あいさつ運動）

地域福祉課	【支えあいのかたちをつくる】事業
事業名	地域福祉活動計画推進事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)

目的と概要 「地域福祉活動計画」は、「支えあい、誰もが安心して暮らせる福祉のまち安曇野」をつくっていくために何をすれば良いのかを、地域の住民が主体となって策定した、いわば地域づくりの「ガイドブック」です。当事業の目的は、この活動計画を広く市民に普及させるとともに、計画が「絵に描いた餅」にならぬよう、活動を継続的に支援していくことです。具体的には、活動計画の「見守り委員会」を中心に計画の進み具合を把握し、新たな生活課題への対応や次期の計画策定に向けた取り組み等を行います。

(主なものを1つ)

26年度目標	「第2期地域福祉活動計画」のスタート年として、第1期で取り組むことができなかった課題について優先的に取り組みます。
26年度実績	「地域福祉活動計画」の地域説明会を通じ、徐々に市民に知っていただくことができています。
主な成果	住民が主体となる地域での「支えあいのかたちをつくる」取り組みが、始まりつつあります。職員もそれに「優先して」支援することができました。
主な課題	活動を進める上での地域ごとの課題を進行見守り委員会でもっと共有する必要性があります。



◀ 「第2期 地域活動計画」
平成26年度から29年度までの具体的な活動計画が示され、全戸に配布しました。

地域福祉課	【支えあいのかたちをつくる】事業
事業名	地区社協・支部社協活動の支援事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)

目的と概要 地区社協・支部社協は、小さな生活圏域における「支えあいのかたちをつくる」ことを目的に、「地域福祉活動計画」に基づいて活動を展開しています。活動は地域の特性や実状に合わせ、試行錯誤を重ねながら様々な形で行われますが、活動の継続的な推進には、各地域が積極的に交流し、互いの課題やノウハウを共有して、活動を「互いに支えあう」ことが重要です。社協は会議・研修会・交流会等を通し、地区社協・支部社協の活動を支援していきます。

(主なものを1つ)

26年度目標	地区社協・支部社協本来の目的や役割を役員間で共有し、5 地域の一体感・連帯感を育てます。
26年度実績	支部運営会主催で「災害時住民支えあいマップ」研修会を開催しました。住民主体の「支えあい」について支部運営会議で検討しました。
主な成果	研修会では、参加者が互いに本来の地域づくりのあり方を学びあいました。地域での「支えあい」活動について知り合う冊子の作成に取り掛かることができました。
主な課題	住民が主体となった活動実践を更に地区・支部社協どうしが知り合うことがもっと必要です。



地区社協研修会は他の地域の支えあいの取り組みを知るきっかけになります。

地域福祉課	【支えあいのかたちをつくる】事業
事業名	安曇野市社協福祉員の組織化
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)

目的と概要 地域住民の皆さんが抱える「生活課題」を、相談窓口へ橋渡しをする「つなぎ役」として期待されているのが「安曇野市社協福祉員」です。地域の皆さんからは、この福祉員活動について「荷が重い」「隣組で孤独死があったらどうしよう」と心配する声も聞かれますが、『向こう三軒両隣』の関係の中で「自然で」「緩やかな」つながりをつくるのが福祉員活動の目的です。社協は安曇野市のすべての小地域において、福祉員活動が根付いていくことを支援していきます。

(主なものを1つ)

26年度目標	住民の皆さんに、福祉員の役割と目的についての正しい理解を広めます。
26年度実績	福祉員についての説明会を、現在までに84地区中79地区で開催しました。
主な成果	福祉員が自分の地区での「困りごと」を発見し、相談窓口へ「つなぐ」事例がみられています。また、福祉員が一人暮らし高齢者の「見守り訪問」を始めた地区もありました。
主な課題	地域における生活課題の「つなぎ役」として、今後の福祉員活動の広がりに期待します。



のぼり旗には「ささえ愛」の文字
今後の福祉員活動の広がりに期待！

地域福祉課	【支えあいのかたちをつくる】事業
事業名	地域福祉活動の拠点づくり事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・地域福祉事業/(補助金・受託金・会費)

目的と概要 社協の各支所は「総合相談の場」、「地域の課題解決の場」である他にも、地域の福祉ニーズに対応できる「しくみをつくる場」になることを目的としています。併せて、老若男女を問わず一般住民、ボランティア、各種福祉団体等の皆さんにとって「出会い・交流の場」、「情報の交換と共有の場」、そして地域福祉に係る「情報発信・受信の場」になることも目指しています。つまり、社協の各支所を「支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」の実現に向けた住民の「活動拠点」として位置づけます。

(主なものを1つ)

26年度目標	社協各支所が小地域福祉活動の拠点となるべく、その役割と機能を知っていただく取り組みを継続し、特にその機能強化を優先して取り組みます。
26年度実績	行事等の様々な機会を捉え、職員が社協支所の役割と機能を住民の皆様へ周知するよう努めました。
主な成果	交流の場やボランティア活動の場として、たくさんの団体や地域住民に利用していただきました。
主な課題	現在は「出会い・交流の場」としての利用が主であり、今後は「総合相談の場」「地域の課題解決の場」としての拠点機能を更に充実させていきます。

社協支所(福祉センター)の利用延人数 (人)

支所名	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
豊科	20,655	19,741	18,789	18,803	19,000	19,059
穂高	30,718	30,440	24,021	24,915	25,500	24,718
三郷	9,822	10,916	11,415	12,224	13,000	11,972
堀金	8,708	8,997	9,149	10,704	11,000	12,593
明科	--	8,500	8,500	8,500	8,700	8,800
合計	69,903	78,594	71,874	75,146	77,200	77,142

地域福祉課	【支えあいのかたちをつくる】事業
事業名	各支所（地域福祉の活動拠点）の重点テーマ
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・地域福祉事業・共同募金事業

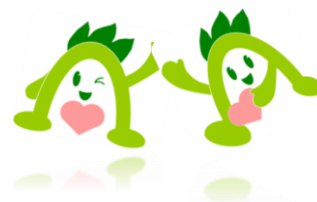
支所名	地域福祉の拠点として、特に力を入れて取り組みたい活動（1つ）	26年度の振り返り▼
豊科支所	安曇野市社協福祉員の役割についての理解を地域の皆さんに広めます。	各地区の懇談会、サロン、福祉学習等の機会に職員が出向き、福祉員の役割を説明してきました。
穂高支所	総合相談窓口の存在を地域住民に十分に周知します。	昨年度から電話による相談も受け付け、チラシを配布して周知を図りましたが、相談件数の伸びは低調です。
三郷支所	「ふれあい・いきいきサロン」の目的や効果を住民の皆さんに広め、サロン活動を更に推進します。	新たなサロンが発足し、その立ち上げを支援し、継続的に行うようになってきました。14 地区 16 ヶ所で定期的に開催しています。
堀金支所	安曇野市社協福祉員の役割を地域住民の皆さんに広く理解していただきます。	職員が各地区へ出向き、新しく隣組長（福祉員）さんになった方に、支所の活動や機能、福祉員の役割について説明をしました（9 地区全地区で実施、総計 246 名参加）。
明科支所	各地域における地区社協活動の継続を支援するとともに、地域の皆さんの地区社協活動への理解と協力を求め、職員が積極的に地域へ出向きます。	地区社協活動やいきいきサロンの他にも、組織を見直している地区の役員会や福祉学習等に、職員が直接出向くことで関係づくりが進み、相談件数も倍増しています。

【お互いのふれあいを広げる】事業

赤ちゃん、若者、お年寄り、こども、学生、労働者、心身に障がいのある人、主婦、就活中の人、心を病む人、介護が必要な人、元気な高齢者、外になかなか出られない人・・・

わたしたちの地域には様々な人が一緒に暮らしています。こうした人たちがお互いを理解することは、「誰もが安心して暮らせる福祉のまち」をつくっていくための土台になります。

【お互いのふれあいを広げる】事業では、外出・交流・楽しい活動等とおして、お互いがふれあう機会を設け、【支えあいのかたちをつくる】ための土壌を醸成していきます。



地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	ふれあい・いきいきサロン（地域住民グループ支援事業）
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自・補助(補助金・共募・会費)

目的と概要 「ふれあい・いきいきサロン」は、地区社協活動の一環として地域の公民館等を会場に開催されています。ここでは、住民同士のふれあい・支えあいの場であるだけでなく、介護予防、生きがいづくり、生活課題への気づき、さらには小地域において「支えあいのかたちをつくる」リーダーの養成等、様々な機能が期待される活動です。当事業はサロン活動の企画・運営への協力をしながら、あくまで住民の自主的・自律的な活動として発展していけるように支援します。

(主なものを1つ)

26年度目標	「地域の世話やきさん」の養成講座のフォローとして、スキルアップ講座を開催します。
26年度実績	「地域の世話やきさん」スキルアップ講座(4回)には延べ100人、お役立ち講座(16回)には延べ116人参加しました。
主な成果	スキルアップ講座での学びは、サロンの運営に大いに活かされているようです。今年度、新たに5つのサロンが立ち上がりました。
主な課題	住民の居場所と成り得るサロンが、世話やきさん等を中心として市内に広がるよう支援する。



「地域の世話やきさん」スキルアップ講座
地元の野菜をまるごと使った「重ね煮」に挑戦

地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	ふれあいバスの旅事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/補助(市補助金・共募・会費)

目的と概要 市内にお住まいの高齢者、心身に障がいのある方、家族介護者及びボランティア等と一緒に参加する恒例の日帰りバス旅行です。日頃は旅行に行くことが困難な方でも、安心して旅を楽しんでいただくとともに、参加者がお互いに交流し、当事者同士のつながりのきっかけをつくるのが目的です。参加費は概ね3,500円程度で、毎年のアンケート結果を参考にして社協職員がツアーを企画し、毎年500名以上が参加して好評をいただいております。

(主なものを1つ)

26年度目標	参加者の満足度アップ(アンケート調査の満足度75%以上)をめざします。
26年度実績	ぐんまフラワーパークをメインの目的地とし、出発日を地域ごとの3回に分けて実施しました。参加者延べ448人でした。
主な成果	参加者アンケートの結果、「大変良かった」及び「良かった」と回答した人の割合は94.5%でした。
主な課題	バスに乗っている時間が長いことや、乗り降りが多いことが参加者の負担となっていています。



車椅子でも安心です。
晴天下の「ぐんまフラワーパーク」では満開のバラが迎えてくれました。

地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	ひとり暮らしの集い事業
経理区分	一般会計/共同募金事業/高齢者(共募)

目的と概要 65歳以上のひとり暮らしの方を対象に、孤立感の解消、生活課題の発見と解決、相談窓口の紹介、介護予防、さらには、お互いの支えあいの機会になることを目的として、季節行事や楽しい催し等を通して交流する事業です。社協の支所が主催し、福祉センターや近隣施設を利用して実施します。当事業が「ふれあい・いきいきサロン」等、地域活動への参加や日頃の交流へのきっかけになることを期待しています。

(主なものを1つ)

26年度目標	潜在的な対象者が参加できるチャンスを増やします。
26年度実績	民生委員さんに潜在的な対象者への声かけのご協力をお願いし、121名の参加がありました。
主な成果	民生委員さんとの連携により、ひとり暮らしの方が抱える課題等の実態を把握することができました。豊科地域は民生委員さんのご協力を得て、高齢者の実態を把握するアンケートを実施しました。
主な課題	高齢者の居場所としての機能、特に孤立感の解消については、他の先進地等の事例を参考にする必要があります。



民生委員さんや、ボランティアさんにご協力をいただき、楽しいひと時を過ごされています。

地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	社会福祉大会の開催
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/補助(会費・市補助金・共募)

目的と概要 福祉関連の講演会及び学校・地域における福祉活動実践の発表を通して、自分の地域の中にある「生活課題」を意識し、地域における「支えあい」の大切さに気づくためのきっかけをつくります。そして「支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」をつくる活動への参加を誘います。
大勢の市民が福祉をテーマに集う「ふれあい」の場ですが、世代を超えた福祉学習、情報発信、社会参加及び表彰の場でもあります。

(主なものを1つ)

26年度目標	新しい運営方法について早期に決定します。
26年度実績	市との共催(初)や会場変更等により、企画・調整に時間を費やしましたが、混乱なく運営できました。当日(9月13日)安曇野市スイス村サンモリッツには約600人が集いました。
主な成果	地元の高校生や地域住民の活動発表には、多くの参加者から「感動した」、「勉強になった」という感想が寄せられました。
主な課題	共催の是非を含めた「大会のあり方」を継続的に検討します。



初めての会場で開会式が無事に執り行われました

地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	その他の【お互いのふれあいを広げる】事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・共同募金事業

支所名	その他の事業	26年度の振り返り▼
本所	・希望の旅事業：障がい者及びその家族の日帰りバス旅行です。	10月28日に実施しました。7組14名の参加をいただきました。
豊科支所	・福祉バザー事業：豊科ふれあいホールで7月に開催予定です。 ・陶芸館の運営事業：朗人大学等でも活用します。	バザー参加者は約1千人で、1,255千円が地区・支部社協活動に還元されました。陶芸館は朗人大学の体験学習で活用されています。
穂高支所	・わんぱく広場&ふれあい祭り：8月に穂高地区の児童館まつりと共同で開催します。	穂高地域の児童館まつりとの共催は初の試みでしたが、例年よりも大勢の子どもや親子連れが参加しました。
三郷支所	・ふれあいマーケット&福祉まつり：実行委員のアイデアがより直接反映される仕組みにしていきます。	11月30日実施。参加者約800名で、バザー売上金642,800円が地区社協、ボラ連三郷支部等へ還元されました。
堀金支所	・ふれあい祭り：支部社協と支所の協働で開催します。 ・ひとり暮らし配食サービス：「まめの会」の手作り弁当を隔月でお届けします。	ふれあい祭りの参加者は740名、関係者・スタッフ160名、総合計900名、来場者アンケートを実施しました。 配食サービスは好評により予約が増えています。
明科支所	・子育てサロン事業：地元の子育て・孫育てを応援するサロンです。 ・福祉まつり：地区社協の活動を紹介するポスターを展示します。 ・おせち料理の配食事業：ひとり暮らし高齢者や障がい者にボランティア特製のおせち料理を民生委員さんがお届けします。	子育てサロン事業は公民館・ファミリーサポート運営委員会との共催も含めて計10回実施できました。 福祉祭りは10月12日に開催し、約800人が来場しました。ポスターは22枚(地区社協・団体・学校)を展示しました。 おせち料理は、141食をお届けできました。

【個を支える】事業

わたしたちが抱える「困りごと」「悩みごと」の中には、隣近所の助け合いやボランティア活動だけでは対応が困難なものも少なくありません。

【個を支える】事業は、このような生活課題に対して専門的な福祉サービスや制度的・組織的なサービスによって応えていこうとするものです。



地域みんなが「つどい、つながり、笑顔あふれる」社協の児童館です

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	総合相談支援体制の構築
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/補助(市補助金)

目的と概要 総合相談支援体制の構築とは、地域住民の日常の暮らしの中にある様々な「困りごと」や「悩みごと」を解決していくために、あらゆる相談をワンストップで受け止め、相談者に寄り添いながら共に考え、解決につなげる仕組みをつくることです。安曇野市と連携し、社協の各支所が窓口となって、課題解決に必要なネットワークを構築しながら、地域住民との協働によって一つひとつの生活課題に対応します。

(主なものを1つ)

26年度目標	社協支所の総合相談窓口を住民に周知します。
26年度実績	支部社協だよりや各種イベント等の機会を捉えて広報しています。
主な成果	相談件数は全体で伸びています。中でも地域の支えあい活動に関するボランティアや地区社協活動に係る相談が増えています。
主な課題	相談件数のカウント方法にばらつきが見られたため、26年12月に見直しを行い統一しました。



地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	児童館管理運営事業
経理区分	一般会計/地域福祉事業/児童館管理運営事業(市受託金)

目的と概要 児童館事業には5つの柱として、①専門の支援員が保護者の相談に対応する「子育て相談事業」、②就園児親子を対象としたイベントを行う「子育て支援事業」、③地域の住民とともに異世代間の交流等を図る「地域ふれあい事業」、④小学生以上を対象に、遊びを通して自主性、社会性及び豊かな情緒を育むことを目的とした「青少年育成事業」、そして⑤放課後児童クラブです。豊科3館、穂高3館と、25年度から三郷、堀金、明科の各1館を加えた全9館を安曇野市から受託して運営しています。

(主なものを1つ)

26年度目標	事業評価シートを作成し、9館共通で導入・試行します。
26年度実績	事業評価シートの運用が定着し、PDCAに則った事業展開を行いました。
主な成果	来館者増(目標値に達成)に向けた各館の工夫や独自の取組みが見られ、全館合計での来館者数は増加(約5000人)しました。
主な課題	青少年育成事業への参加者数が伸びていません。

児童館の来館者延人数(人) *児童クラブは除く

児童館名	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
豊科南穂高	13,783	14,779	15,132	13,737	15,000	13,006
豊科高家	8,531	9,011	10,000	9,385	10,000	9,944
豊科中央	12,875	14,244	12,800	10,908	13,000	13,879
穂高西部	7,951	8,351	8,177	8,299	9,000	7,814
穂高中央	12,372	12,318	11,756	12,492	13,000	13,521
穂高北部	5,452	5,419	5,346	5,840	6,500	6,878
三郷	--	7,255	9,105	11,300	12,000	10,379
堀金	--	7,531	8,100	11,127	12,000	11,169
明科	--	11,336	9,000	8,935	9,500	10,208
合計	60,964	90,244	89,416	92,023	100,000	96,798

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	児童館管理運営事業 【放課後児童クラブ】
経理区分	一般会計/地域福祉事業/児童館管理運営事業(市受託金)

目的と概要 遊びや諸活動を通して、児童の自主性、社会性、創造性を培います。また、保護者の子育てと就労等との両立を支援します。障がい児についても、可能な限り受け入れに努めます。保護者のニーズより、「学習支援」と「おやつ の充実」があります。児童クラブの柱となる2つの活動については、当会としての方向性を徹底し支援を展開していています。また、26年度からは長期休 みの休校日は、以前より30分早い午前7時半よりの開所をスタートしまし た。

(主なものを1つ)

26年度目標	9つの児童クラブの業務や支援の統一化を図り、当会運営児童クラブ全体の支援の質の向上を図ります。
26年度実績	支援ハンドブック、各種マニュアルの整備を進め、内容周知を進めました。
主な成果	アンケート結果、職員対応満足度の向上(H25:54%→H26:75%)。
主な課題	児童クラブ生のケガや事故が増加しました(16件、前年度比+7名)。

放課後児童クラブの来館者延人数(人)

児童館名	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
豊科南穂高	--	9,597	9,491	10,163	10,500	11,191
豊科高家	--	10,111	10,662	10,613	10,500	11,863
豊科東小	--	3,589	4,078	3,406	4,000	5,195
穂高西部	--	6,320	5,693	4,681	5,500	8,346
穂高中央	--	9,596	10,046	10,051	10,000	6,436
穂高北部	--	6,907	7,127	8,541	8,500	9,725
三郷	--	15,921	17,857	15,054	15,500	13,539
堀金	--	9,466	7,971	8,204	8,500	7,519
明科	--	6,798	7,071	6,451	7,000	5,547
合計	--	78,305	79,996	77,164	80,000	79,361

域福祉課	【個を支える】事業
事業名	ファミリーサポート事業
経理区分	一般会計/地域福祉事業/ファミリーサポート事業(市受託金)

目的と概要 社協の「ファミリーサポートセンター(豊科支所内)」が事務局となり、依頼会員(子育てに手助けを必要としている会員)と協力会員(手助けをする会員)とをつなぎ、子育ての「支えあい活動」を推進します。対象は0歳から12歳までの子どもを持つ市民で、保育園・小学校の送迎や親の外出時の託児等を行う「ファミリーサポート」と、子どもの保育園・小学校での急な発病や、親の急な残業の際に送迎や託児を行う「緊急サポート」があります。料金は通常1時間600円(日・祝日は700円)です。

(主なものを1つ)

26年度目標	潜在的なニーズの掘り起こしを行い、依頼会員登録者数を増やします。
26年度実績	【目標値】新規依頼会員登録者数年間197名(前年度179名の1割増)に対して26年度実績177名(達成率90%)でした。
主な成果	依頼会員の登録会を児童館でも行う試みを始めました。また、定期的な集団託児を7月より月1回実施し毎回10名以上の参加者があります。
主な課題	保育園入園の低年齢化や一時保育の利用等、他の社会資源利用が伸びていることもあり、支援件数は横ばい状態です。

ファミリーサポート事業における会員数及び支援件数

項目	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
協力会員数(人)	217	176	124	150	180	115
依頼会員数(人)	814	805	639	747	900	773
支援件数(件)	1,516	2,271	1,388	1,412	1,420	1,386
ファミリーサポート	1,435	2,196	1,322	1,277	1,280	1,218
緊急サポート	81	75	66	135	140	168

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	デマンド交通あづみん（地域交通ネットワーク事業）
経理区分	公益事業特別会計/地域交通ネットワーク事業/(市受託金)

目的と概要 特に「交通弱者」の足を確保して外出を支援することが目的ですが、市内のどなたでも利用できます。当事業には、①予約を入れていただいたご自宅や目的地を、乗り合わせながら順次回る「デマンド交通」、②朝夕の通勤通学時間帯に合わせて JR の豊科駅⇔田沢駅間及び穂高駅⇔明科駅間を運行する「定時定路線」があります。平成 19 年から安曇野市の委託を受けて社協が配車管理(オペレーター業務)をしています。利用料金は片道 300 円(障がい者 100 円)です。

(主なものを1つ)

26 年度目標	ドライバーの接遇を改善します。
26 年度実績	運行委員会でタクシー会社にドライバーの接遇改善を求めました。
主な成果	ドライバーに対する苦情は 25 年度と比べて減少しています。
主な課題	利用者とドライバーが顔馴染みとなるため、ドライバーへの苦情が潜在化してしまうリスクがあります。

デマンド交通の利用延人数（人）及び主な利用目的（多い順）

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
年間延人数	88,217	89,807	91,597	91,272	92,000	90,519
男性	17,040	17,636	19,632	20,257	21,000	21,739
女性	70,659	71,760	71,622	70,660	71,000	68,464
60 歳以上	68,753	68,773	68,777	69,442	--	64,992
障がい者・小学生	32,073	34,034	38,516	35,343	--	41,219
利用ランキング1	病院				--	病院
利用ランキング2	スーパー				--	スーパー

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	地域包括支援センター運営事業
経理区分	一般会計/地域包括支援センター事業/(市受託金・介護保険)

目的と概要 「地域包括支援センター」は高齢者が住み慣れた地域で、できるだけ自立した生活を営むために、必要なサービスを必要なタイミングで継続的に利用できるしくみ・・・「地域包括ケアシステム」を構築するための中核的存在として、高齢者の①実態把握・相談対応・サービスの利用援助、③関係機関のネットワーク構築、④権利擁護活動、⑤ケアマネジャーの支援及び⑥介護予防プランの委託・作成等を行います。平成 23 年度に「南部」、25 年度に「北部」の支援センターを安曇野市から受託しています。

(主なものを1つ)

26 年度目標	介護予防・生活支援事業に係る社協プランを介護・事業課との協働で策定します。
26 年度実績	介護予防・生活支援検討チームへ参画し、介護予防支援事業対象者からの聞き取りや、相談内容に基づくニーズをチーム内で共有しました。
主な成果	既存の予防対象者等のニーズを反映しつつ、新たな「総合事業」ガイドライン案に沿った事業のあり方を検討しました。
主な課題	地域ケア個別会議で把握したニーズを社協の支所機能につなぎ、必要な地域資源を協働で創造していくことが求められています。

地域包括支援センターの実績及び次年度目標

項目	センター名	H23	H24	H25	H26 目標	H26
相談件数 (件)	南部包括	1,996	3,133	3,158	3,200	3,187
	北部包括	--	--	4,111	4,800	4,392
地域ケア 会議(回)	南部包括	--	--	1	6	8
	北部包括	--	--	0	4	2

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	住民参加型有償在宅福祉サービス事業 (しあわせ・あづみん)
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自事業(会費)

目的と概要 「しあわせ・あづみん」は、公的・制度的なサービスでは解決できない生活課題を「住民同士が助け合って解決する活動」です。「自分のできることで困っている人の役に立ちたい」というボランティアの気持ちを持った方が、生活の中で「困りごと」のある方からの依頼に手をお貸しするしくみです。「お互いさま」の気持ちで地域のたくさんの人がつながっていくことを目的としています。現在は社協の各支所で事務局を担っています。

(主なものを1つ)

26年度目標	「労力提供ニーズへの対応」及び「介護予防・生活支援事業との連携」をテーマに、今後の「しあわせ・あづみん」のあり方を検討します。
26年度実績	地域福祉係担当者会議において、「しあわせ・あづみん」の担い手の育成、地域での互助活動の必要性について職員間で意識共有できました。
主な成果	職員間で上記のような意識共有ができた結果、しあわせ・あづみん支援会員の増員、新聞等を活用した互助活動の啓発を行うことができました。
主な課題	しあわせ・あづみんの普及と地域での「互助活動」の啓発・推進は、今後も継続して行う必要があります。

「しあわせ・あづみん」の実績及び主な支援内容 (多い順)

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
支援会員数 (人)	--	49	86	124	170	146
利用実人数 (人)	--	110	155	170	210	130
支援延件数 (件)	--	330	458	518	700	326
内容1	--	話し相手	清掃・整理	清掃・整理	--	買い物
内容2	--	買い物	買い物	ゴミだし	--	ゴミだし
内容3	--	食事づくり	ゴミだし	買い物	--	清掃・整理

※平成 24 年度以降「話し相手」はボランティア活動へ移行しました。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	生活福祉資金貸付事業（本所）
経理区分	一般会計/地域福祉事業/生活福祉資金貸付事業(県受託金)

目的と概要 長野県社協からの受託事業で、低所得者、障がい者及び高齢者を対象に資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、その経済的自立及び生活意欲の向上を図り、住み慣れた地域で安定した自立生活が送れるようにすることが目的です。安曇野市における貸付件数の内、「教育支援資金」及び「緊急小口資金」が約半数を占めています。仕事に就いていない相談者については、就労に向けた「つなぎ役」としての支援も行います。

(主なものを1つ)

26年度目標	「生活困窮者自立支援モデル事業」と積極的に連携します。
26年度実績	「生活困窮者自立支援モデル事業」の中で、貸付により生活の自立が見込める個別のケースにおいて、具体的に連携することができました。
主な成果	事業間の連携を通じて、生活困窮者自立支援事業、生活福祉資金貸付事業、更には日常生活自立支援事業を包括的に運営することが、相談者の課題解決に有効であることが検証できました。
主な課題	平成27年度生活困窮者自立支援事業が行政より当会へ事業委託されます。具体的なケースを通じて連携手法を検討する必要があります。

生活福祉資金貸付事業の貸付及び就労支援件数（件）

項目	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
貸付件数	132	145	154	144	140	161
就労支援	--	2	1	1	2	0

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	日常生活自立支援事業
経理区分	一般会計/地域福祉事業/日常生活自立支援事業(市補助金・県社協受託金)

目的と概要 認知症高齢者、知的障がい者及び精神障がい者等、判断能力が不十分な方の権利を擁護し、必要なサービスを適切に利用して自立した地域生活が営めるよう、福祉サービスの利用援助を行うことが目的です。当事業は権利擁護分野のケースワークにおける中心的な事業であり、様々な社会保障制度への「つなぎ役」、さらには成年後見制度を補完するという役割を果たしながら、権利擁護ニーズを抱えた相談者の課題解決を進めていきます。

(主なものを1つ)

26年度目標	専門員の増員とスキルアップにより、運営体制を強化します。
26年度実績	行政により当事業の必要性が認められ、概ね専門員1名分の人件費が確保でき増員できました。(廃止された他の委託事業からの振替)
主な成果	運営体制の強化に伴い、当事業の利用希望を断ることなく対応できています。今後、長期入院患者の地域移行が進む中で、その受け入れ体制の構築につながりました。
主な課題	年度を経るごとに、専門員が感じる「処遇困難ケース」が増加しています。これらに対しては、支援スキルを更に磨く必要があると同時に複数の専門員で対応に当たり、一人の専門員の負担を分散する必要があります。

日常生活自立支援事業の利用者数(人)

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
利用実人数	47	42	48	47	60	46
内・新規利用者	11	10	11	11	21	15 契約待機 11

※平成26年度人員増強により契約締結件数目標値を大幅修正しました。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	心配ごと相談事業
経理区分	一般会計/地域福祉事業/相談事業(市受託金)

目的と概要 「心配ごと・行政相談」は、住民が抱える様々な心配ごとに対して、民生児童委員、人権擁護委員又は行政相談員等が面談し、解決につなげていく事業で、社協の各支所で月2回(1回目が心配ごと、2回目が行政相談)開催します。また、法律的措置が必要なケースについては、「無料法律相談」を支所毎に月1回別途開催し、司法書士が対応しています。社協の職員は相談記録等を担当する他、必要に応じて社協事業又は地区社協活動への「つなぎ役」を務めます。

(主なものを1つ)

26年度目標	当事業の広報を手段・範囲ともに拡大していきます。
26年度実績	行政無線、広報、当会ホームページにて広く住民に周知しました。
主な成果	無料法律相談は、相談日以外での相談員経由や事務局経由での申込みがありました。
主な課題	27年度は行政無線での周知が廃止となり、新たな周知の方法の検討が必要です。

心配ごと相談事業における相談件数(件)及び主な相談内容(多い順)

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
相談件数	193	194	194	153	190	159
内容1	家族・親族	土地・建物	土地・建物	土地・建物	--	土地・建物
内容2	土地・建物	家族・親族	家族・親族	近隣住民	--	家族・親族
内容3	近隣住民	近隣住民	近隣住民	遺産相続	--	近隣住民

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	その他の【個を支える】事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・地域福祉事業・共同募金事業

事業名及び概要	26年度の振り返り▼
1 権利擁護事業<一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費、市補助金)> 高齢者及び障がい者等で「日常生活自立支援事業」に該当しない方に、必要な福祉サービスの利用援助、金銭管理及び財産保全、消費者被害の回復等の支援を行います	成年後見(任意後見)制度の利用、相続財産管理、消費生活等に関する相談は延14件でした。司法書士との連携により解決につながっています。
2 「安曇野市における権利擁護のあり方研究会」運営事業<一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)> 法人後見を中心に、当市における後見制度のあり方を関係者が共同で研究する事業です。	松本ブロック社協「地域福祉と権利擁護担当者会議」を母体として6回の検討を行うことができました。
3 安心コールボランティア事業<一般会計/共同募金事業/共同募金(高齢者)> ひとり暮らし高齢者等を対象として、定期的に電話でのお話し相手になることで、安否確認及び孤立感の解消を図る事業です。	ボランティア34名利用者68名で概ね週1回実施。情報交換会を穂高で2回、交流会を堀金・明科で各1回開催しました。
4 婚活サポート事業<一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)> 25年度までの「結婚相談事業」に登録された40歳以上及び障がい者の内、社協の継続支援が必要な方を26年度の1年間フォローします。	人材及び財源の確保ができず実施困難でした。今後は総合相談支援の中で対応できるノウハウを蓄積していきます。
5 災害援助金事業<一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)> 長野県共同募金会の「災害等援護金配分金要綱」に従い、見舞金を被災者に届けます。	住宅火災5件(内死亡1名) 見舞金合計120,000円
6 生活困窮者自立支援事業 生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者の相談対応、自立支援計画の作成及び関係機関との連絡調整を行う事業です。26年度は長野県モデル事業の1つとして、長野県社協からの出向職員1名を受け入れ、安曇野市と連携して新制度施行に備える予定です。	モデル事業では、県社協出向職員とともに、生活福祉資金、日常生活自立支援の各事業の具体的なケースにおいて連携でき、次年度に向けた体制整備のイメージができました。

【支える人を支る】事業

「支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」を実現するためには前記のような取り組み、すなわち

① 支えあいのかたちをつくる（しくみづくり）

② お互いのふれあいを広げる（関係づくり）

③ 個を支える（専門的サービス）が必要ですが、これらの取り組みの推進には、

④ 支える人を支える（人づくりと活動支援）

ことが欠かせません。

【支える人を支える】事業では、地域福祉活動を担うボランティア等の人材を育成し、その活動を支援していきます。また、住民の地域福祉への関心を高め、地域づくりに参加するきっかけをつくっていきます。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	ボランティアセンター運営事業（本所/各支所）
経理区分	一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)

目的と概要 ボランティアセンターは、ボランティア活動を通じて「人と人をつなぐ」ことで「地域づくり」を推進します。同センターは社協本所及び各支所内にあり、専属のボランティアコーディネーターが1名ずつ配置されています。コーディネーターの主な役割は、ボランティア活動に関する相談に応じ、「自分のできることで地域の役に立ちたい」という気持ちと、「ボランティアを必要としている人・活動」とを結びつけること(マッチング)、ボランティア活動を支援していくこと、そして、ボランティアの育成及び普及をしていくことです。

(主なものを1つ)

26年度目標	市内におけるボランティア活動・市民活動に係る組織のネットワークづくりを継続・発展させます。
26年度実績	市民活動センターとはほんの一部の情報の共有にとどまりました。ボラネット(市民活動紹介冊子)による活動団体の情報の発信に役立っています。
主な成果	“ボラコン”(若い世代のネットワークづくりの場)等、地域や組織の枠を超えた若い世代のつながりができ、活動へと発展しています。
主な課題	市民活動センターやNPO等と協働する機会を更に広げていきたいと考えています。

ボランティアセンターにおけるマッチング成立件数 (件)

支所名	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
本所	--	23	57	62	80	35
豊科	--	80	108	256	260	355
穂高	--	49	31	93	100	167
三郷	--	131	123	137	150	53
堀金	--	34	48	55	80	70
明科	--	62	68	65	70	105
合計	--	379	435	668	740	785

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	福祉学習推進事業（本所/各支所）
経理区分	一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)

目的と概要 社協が展開する福祉学習は主に 2 つの種類があります。1 つは、学校(小・中・高)と連携し、児童・生徒さんを対象とした「福祉のこころ」を育むための学習と、2 つ目は広く地域住民を対象として、「わたしたちの地域を、わたしたちでつくっていく」ために役立つ機会を、サロン活動や地域学習会等を利用して提供するものです。両者とも「教える-教わる」関係ではなく、対象者が自ら気づき、自ら行動していくことを、社協のボランティアコーディネーターが中心となって支援していきます。

(主なものを1つ)

26 年度目標	「学校」と「地域」という、2つの福祉学習の場を結びつけた「相互学習」を展開します。
26 年度実績	「学校」では 13 校で福祉に関する事業を支援し、三郷(中萱)での中学生と地元住民の防災をテーマとした相互学習の支援をしました。
主な成果	「学校」の福祉学習では、高齢者や障がいについての学びを通して、「地域」の高齢者施設との交流や障がい者との交流が広がっています。
主な課題	「相互学習」を展開していくためには、まずは、「学校」と「地域」が互いに学べる場を作り出すことが必要だと考えます。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	サマーチャレンジボランティア事業（本所/各支所）
経理区分	一般会計/共同募金事業/児童・青少年(共募)

目的と概要 市内の小中学生を対象に、夏休みを利用した福祉活動やボランティア活動の体験をします。学校の授業や普段の生活では学べないような体験を通して、ボランティア活動への動機づけを促し、「支えあい、共に生きる」ことの大切さと楽しさを「肌」で感じてもらうことが目的です。また、学校や学年、地域といった日常の「枠」を超えて交流し、お互いのふれあいを広げていくこともねらいます。

(主なものを1つ)

26年度目標	宿泊を含めたプランを試行し、成果を評価します。
26年度実績	今年度は「自分を守る！みんなと守る！」をテーマに、8月1、2日に開催し、小中学生32名、高校生3名及び地域住民18名が参加しましたが、宿泊はしませんでした。
主な成果	年齢の異なる参加者が共に知恵を出し合い、協力することの大切さを体験し、当事業の目的は達成できました。
主な課題	宿泊プランの是非を含めて検討していきます。



「自分とみんなを守るために何が必要？」
大人と子どもが協力し、避難所(中学校の体育館)の平面図を見ながら、知恵を出し合いました。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	朗人大学の運営事業（本所/各支所）
経理区分	一般会計/地域福祉事業/朗人大学(市受託金)

目的と概要 60歳以上の方を対象とした朗人大学の主な目的は、①年輩者の優れた能力や経験を広く地域づくりに役立てていただくこと、②「学生」たちが新たな知識を習得しながら健康づくり・仲間づくりを行うこと。以上の2つです。講座は教養・趣味・社会見学・芸術鑑賞等の19種類があり、月に1日ずつ(年間12日)開催します。平成23年度から「ボランティア実践講座」を新設し、「卒業」後のボランティア活動への参加を働きかけています。

(主なものを1つ)

26年度目標	「卒業生」が地域のボランティア活動へ参加する動機づけを高めます。
26年度実績	朗人大学のプログラムで、ボランティア実践講座を10回開催しました。
主な成果	社協の呼びかけにより、「在學生」が社協各支所・児童館・就労施設等のイベントや事業へボランティアとして参加しました。
主な課題	ボランティア実践講座の更なる充実と、卒業後を見据えた地域参加への意識作りをどう進めていくか、が課題です。



今年度は78名の学生さんがご卒業されました。卒業後に地域でそれぞれのご活躍を期待します。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	災害支えあいボランティア構築事業（本所）
経理区分	一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)

目的と概要 地震や台風等による災害が実際に発生した時、地域のつながりやボランティア活動が、とても大きな力になることを過去の災害から学びました。わたしたちには、防災や災害時の支えあいについての「関心」を持ち続け、十分に「備え」、いざという時にきちんと「行動できる」ことが求められます。当事業の目的は、このようなニーズに対応するため、安曇野市又は近隣市町村が被災した時に、わたしたちは具体的に何ができるのか、また何をすべきなのかをきちんと整理して、いざという時に備えることです。

(主なものを1つ)

26年度目標	災害時対応マニュアルの作成に着手します。
26年度実績	松本ブロック災害ボランティア担当者会議に参加し、情報収集や関係機関との連携等、マニュアル作成に向けて準備を進めました。
主な成果	東日本大震災から3年後の復興状況等視察（岩手県大槌町・山田町他）と各支所で報告会実施。 マニュアルづくりには至っていません。
主な課題	マニュアル作成に向けて、社協全体としての取り組み体制の整備は勿論、行政との連携も必要です。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	その他の【支える人を支える】事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・地域福祉事業・共同募金事業

事業名及び概要	26年度の振り返り▼
1 「支えあいセンターにじ」の管理運営事業 <一般会計/地域福祉事業/ボランティアセンター-管理運営(市受託金)> 豊科にあるボランティア・市民活動の拠点です。社協のボランティアコーディネーター1名が配置され、活動に係る相談支援、連絡調整、マッチング、研修会、合同会議及び施設管理等を行います。	センター利用者を対象としたアンケート調査を行い、138人より回答を得た。ボランティアやサロン等の公益活動を中心にグループの新規立ち上げに向けた支援を行いました。
2 ボランティア情報誌発行事業 <一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)> ボランティア・市民活動に係る情報を市民向けに発信し、各活動への参加や利用を促進しています。	広報誌やあづみ野エフエム等により、広く情報を発信しました。
3 福祉教育推進事業(福祉教室/ボランティア体験教室) <一般会計/共同募金事業/児童・青少年(共募)> 小学校3、4年生から中学生を対象に、身近な地域で年間を通して福祉活動やボランティアの体験をする事業です。社協のボランティアコーディネーターが地元住民と協力して運営します。	穂高・三郷・堀金で実施しました。地域性を活かしながら、イベントへの参加協力や地元の施設との交流ができました。
4 高校生サマーボランティアスクール事業<一般会計/共同募金事業/児童・青少年(共募)> 市内の高校に通う高校生を対象とした福祉・ボランティア体験です。「ホスト校」に選ばれた高校の生徒は、当事業の企画・運営から参加します	「食と命について」をテーマに、8月6、7日に開催し、延べ23人が参加しました。ホスト校である南安曇農業高校の生徒が「命の授業」を担当しました。
5 手話奉仕員養成講座事業 <一般会計/地域福祉事業/手話奉仕員養成講座(市受託金)> 聴覚障害者の支援者の育成を目的として、手話の技術習得と福祉制度等について学ぶ講座で、聴覚障害者協会が中心となって開催しています。	手話奉仕員養成講座・基礎課程を実施。修了者12/12(平日コース8名・休日コース4名)。5月から開始し、12月に終了しました。

地域福祉課	【財源確保】
事業名	地域福祉事業における自主財源の確保
経理区分	一般会計/ふれあいの事業・地域福祉事業・共同募金事業

目的と概要 地域福祉事業を展開するための主な自主財源は、①社協会費及び②共同募金です。社協会費は普通会費(個人、1口1,000円)、特別会費(企業・事業所、1口5,000円)及び賛助会費であり、地区社協・支部社協活動の主な財源です。共同募金の社協への配分金は、ボランティアセンターの運営をはじめ、福祉教育、児童・青少年育成、障がい者・高齢者支援及び「お互いのふれあいを広げる事業」等、地域福祉づくりに必要な事業の財源となっています。

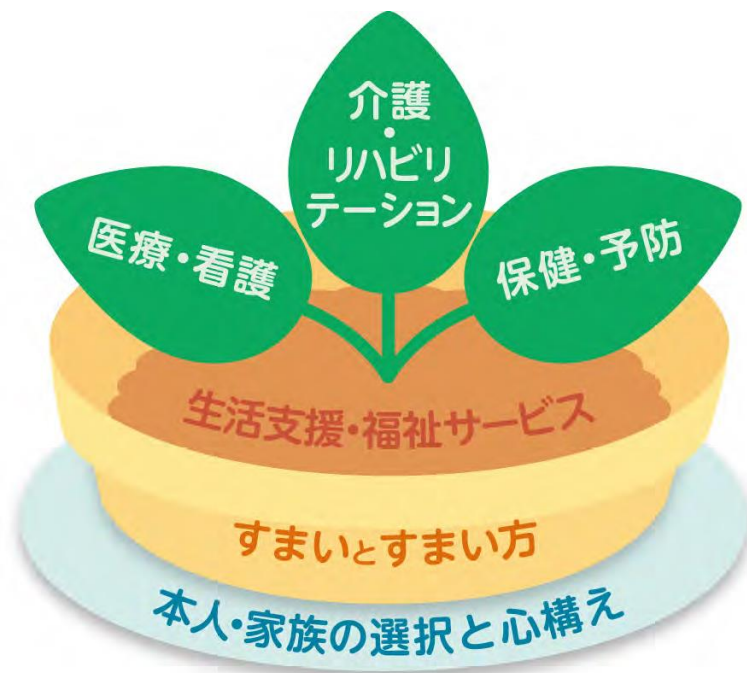
(主なものを1つ)

26年度目標	社協会員数は普通・賛助・特別会員ともに25年度以上をめざします。
26年度実績	普通会員22,351件、賛助会費864件、特別会員810件でした。
主な成果	普通会員、賛助会員合わせて前年度比224件の減となりましたが、特別会員は集中した呼びかけの結果16件の増となりました。
主な課題	地域づくりのための自主財源の確保は、今後ますます重要な課題です。その必要性和、使途、成果のPRに力を入れていく必要があります。

社協会費・共同募金への協力状況 (件)

項目	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
普通会員	22,497	22,397	22,309	22,531	23,000	22,351
賛助会員	931	980	892	908	930	864
特別会員	816	810	783	794	810	810
合計	24,244	24,187	23,984	24,233	24,740	24,025
共同募金	22,354	21,936	21,935	21,762	21,000	21,699

介護・事業課



地域包括ケアシステム概念図

地域包括ケアシステム構築に向けて、社協事業所は地域と協働していきます。



介護・事業課	高齢者支援事業
事業名	居宅介護支援事業/介護予防支援事業
経理区分	一般会計/居宅介護支援事業

目的と概要 要介護者及び要支援者が、必要なサービスを適切に利用し、できる限り自立した生活が行えるよう、居宅介護支援専門員(ケアマネジャー)が本人及び家族の意向や心身の状況、環境等を勘案してケアプラン(又は予防プラン)を作成し、サービス事業者との連絡調整等を行うサービスです。この内、要支援者(予防給付の対象者)に対する介護予防支援事業は安曇野市からの受託事業です。

(主なものを1つ)

26年度目標	記録・書類作成の方法や内容を統一し、より適切なケアプラン作成をめざします。
26年度実績	11月に外部講師による研修会を開催し記録、書類作成について学びました。またチーム内における相互のケアプランチェックやリーダーが確認することが定着してきました。
主な成果	記録、書類作成についての研修に基づき、現行のモニタリング表をより有効で効率的な書式に改めました。
主な課題	予防の利用者数は増加していますが、要介護の利用者数は相変わらず減少しています。また職員1人当たりの担当件数は適正数値ですが、困難事例への対応で残業せざるを得ない状況があります。

ケアプラン及び予防プランの作成件数 (件)

項目	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
介護	7,850	8,454	8,413	8,431	8,520	7,999
予防	1,413	1,964	2,046	2,427	2,304	2,857
合計	9,263	10,418	10,459	10,858	10,824	10,856

介護・事業課	高齢者支援事業
事業名	通所介護事業（デイサービス）
経理区分	一般会計/通所介護事業

目的と概要 介護が必要な方を自宅まで送迎し、食事(昼)、入浴、機能訓練及びレクリエーション等の日中のサービス(day-service)を提供します。家族介護者の負担を軽減するためのみならず、利用者本人が日中を有意義に過ごすことで、デイサービスの利用時間に限らず、自宅における生活機能やQOLを維持向上させることが目的です。安曇野市の指定管理である5事業所と、認知症対応型「ゆたかの郷」の合計6事業所を運営しています。

(主なものを1つ)

26年度目標	利用者が選択できる活動メニューを更に拡充させ、「過ごし方」を自ら選択できる環境を整えることで利用者の満足度を高めます。
26年度実績	豊科の映画上映の定番化や足浴、明科の外出活動等選べる活動メニューの他に、三郷のお風呂美術館等、利用者の満足度を高める新規活動が各デイで開発されました。11月に取組発表研修会を行ないました。
主な成果	取組発表研修会后、外出活動のノウハウの共有や、全てのデイで日中活動の希望調査を実施する等、新たな活動開発への意識が高まりました。
主な課題	活動を通じた個々の利用者の様子を評価し、家族やケアマネジャー等への確に伝えていく必要があります。

デイサービス利用延人数（人）

事業所名	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
豊科デイ	10,185	10,667	10,699	10,272	11,488	10,279
穂高デイ	8,826	9,232	8,766	8,632	8,858	8,072
三郷デイ	10,396	10,449	10,289	9,124	10,402	9,740
堀金デイ	7,684	8,033	8,964	8,863	9,348	8,616
明科デイ	9,197	9,163	9,054	9,027	9,335	8,313
ゆたかの郷	--	1,496	1,814	2,192	2,513	2,047
合計	46,288	49,040	49,586	48,110	51,944	47,067

介護・事業課	高齢者支援事業
事業名	訪問介護事業（ホームヘルプサービス）
経理区分	一般会計/訪問介護事業

目的と概要 介護福祉士等の専門資格を有するホームヘルパーが、介護の必要な方の自宅を訪問し、排せつ、食事等の介護（身体介護）や調理、掃除等の家事（生活援助）のサービスを提供します。家族介護をカバーし、利用者本人の自立をできる限り支援することで、利用者及び家族の家庭生活を支えるとともに、介護に限らない利用者周辺の生活課題を「つかみ」、課題解決へ「つなぐ」ことにより、利用者及び家族の地域生活を支援していくことが目的です。

（主なものを1つ）

26年度目標	社協内外の社会資源を把握し、関係者及び関係機関との連携を強化することにより利用者へのより良い支援につなげます。
26年度実績	訪問時に気付いた利用者の心身や生活状況の変化を家族や関係者に報告し、必要な連携を図ることができました。
主な成果	デイサービス、訪問看護等、事業所間の連携によりターミナル期を含む高齢者の在宅生活を支える事ができました。
主な課題	職員の体調不良等による人手不足の状態が続いており、訪問スケジュールに対応するため慢性的な残業状態の改善が図れていません。

訪問介護サービス利用延時間（時間）						
事業所名	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
北部ヘルパ-	14,680	14,291	11,803	13,791	15,000	11,217
南部ヘルパ-	21,305	17,583	16,228	17,272	17,000	19,629
東部ヘルパ-	21,050	18,201	17,009	16,053	16,250	13,702
合計	57,035	50,075	45,040	47,116	48,250	44,548

介護・事業課	高齢者支援事業/障がい者支援事業
事業名	訪問入浴介護事業
経理区分	一般会計/訪問入浴介護事業

目的と概要 自宅浴室での入浴が困難で、かつデイサービスの利用も困難な重度の要介護者等に、自宅で安心して入浴を楽しんでいただくことが目的です。看護師及び介護福祉士等の3名が、ボイラー搭載の「訪問入浴車」で利用者の自宅を訪問し、利用者の居室内に組み立て式の浴槽を設置して、寝たままの姿勢での入浴を提供します。現在は1ヶ所の事業所(明科)から市内全域に出向いています。

(主なものを1つ)

26年度目標	職員と訪問入浴車を増やし、量・質の両面における多様な利用希望に、より極め細やかに対応します。
26年度実績	11月より車両2台体制となり、新規車両での訪問が始まりました。3月に三郷地域にてデモンストレーションを開催し13名の参加がありました。
主な成果	新規車両は軽自動車タイプなので、訪問先の立地条件に柔軟に対応できます。デモには一般地域住民の参加もあり、興味関心をひきました。
主な課題	車両2台をより多く稼働させるために職員体制の構築・オペレーターの育成が課題です。またパンフレットの発行や地域住民を対象にしたデモンストレーションの開催など、積極的な事業周知も必要です。

訪問入浴介護利用延時間 (時間)

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
介護保険	456	454	722	986	1,240	1,250
障がい者	13	0	57	67	96	65
合計	469	454	779	1,053	1,336	1,315

介護・事業課	高齢者支援事業/障がい者支援事業
事業名	訪問看護事業
経理区分	公益事業特別会計/訪問看護事業

目的と概要 看護師、理学療法士又は作業療法士が、主治医の指示書に基づいて利用者の自宅を訪問し、利用者の心身の健康管理、医療機器の管理、排せつや栄養の管理、スキンケア、リハビリテーション、ターミナルケア等の医療サービスを提供します。医療的なケアが必要な要介護者が、どんな病気や障害であっても住み慣れた家と地域で、安心して、できるかぎり自立した生活を営めるよう、医療の面から支援していくことが目的です。事業所は 1ヶ所(穂高)で、市内全域をカバーします。

(主なものを1つ)

26年度目標	夜間・休日の緊急時対応の体制を強化し、職員の負担を軽減します。
26年度実績	同行訪問により利用者の状態を複数の職員が把握し、緊急時対応の体制強化に努めました。
主な成果	1人の利用者に対し2人以上の訪問看護師が関わられるようになり、緊急時対応の体制作りと同時に職員の負担軽減を図る事ができました。
主な課題	看護師等、不足している職員の補充ができず、緊急時対応へのカバー体制が整っていない。

訪問看護利用延時間 (時間)						
項目	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
介護保険	2,721	3,030	2,996	2,873	3,360	3,302
医療保険	555	476	333	296	303	393
合計	3,276	3,506	3,329	3,169	3,663	3,695

介護・事業課	障がい者支援事業
事業名	相談支援事業（相談支援センターぶれす）
経理区分	一般会計/相談支援事業

目的と概要 障がい者（児）が必要なサービスを適切に利用することにより、安心して地域生活を送ることができるように、本人及び家族の意向や心身の状況等を踏まえ、障害福祉サービスの利用計画を作成し、定期的に見直しを行います（計画相談支援・障害児相談支援）。また、施設に入所中又は病院に入院中の障がい者が、退所（退院）して地域生活に移行するために必要な相談支援を行い（地域移行支援）、さらに地域生活開始後のフォローも実施します（地域定着支援）。

（主なものを1つ）

26年度目標	事業所規模を適正化し、新体制におけるサービスの質を維持します。
26年度実績	人員体制の見直しを行う中で、丁寧なアセスメント、及び本人のニーズに沿ったプラン作りを心がけました。
主な成果	地域移行支援や困難ケースの受け入れを行い、社協相談支援センターの社会的な役割を高めました。
主な課題	制度的要因が大きく、人員体制の見直しや業務の効率化だけでは経営の改善を図れない状況です。

相談センターぶれすの相談支援件数（件）		※数値は計画作成及びモニタリングの合計				
項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
計画相談	--	--	33	173	150	158
障害児相談	--	--	1	6	18	5
地域相談	--	--	0	2	12	5
合計	--	--	34	181	180	168

介護・事業課	障がい者支援事業
事業名	障害者就労移行支援事業（豊科ジャンプ）
経理区分	障害者就労支援事業特別会計/就労移行支援事業

目的と概要 就職を希望する障がい者に 2 年間で標準として就労に必要な訓練を行います。訓練プログラムは利用者の希望、適性及び能力等に基づいて個別に作成します。また、利用者の就職活動の支援、職場の開拓、更に就職後の職場定着のための支援も行います。障がい者の「できること」を活かし、必要な支援を受けながら活躍できる職場を増やし、もって障がい者の社会的・経済的自立ができる環境(地域)を創っていきます。

(主なものを1つ)

26 年度目標	福祉的就労や居場所の確保を含め、すべての利用者に対する的確な就労(進路)支援が実施できるようにしていきます。
26 年度実績	一般就労だけでなく、福祉的就労を希望する方に対しても、それぞれのニーズに沿った個別支援計画を作成し、それに基づいた支援が行えました。
主な成果	一般就労者5名
主な課題	B型利用希望者に対するアセスメントが導入され、利用者が増加してきています。施設の狭隘さ、職員・設備の不足が課題です。

豊科ジャンプの利用実人数他

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
利用実人数 (人)	--	14	11	13	11	14
利用延人数 (人)	1,871	1,830	1,667	1,427	1,878	1,952
一般就労 (人)	5	3	2	2	3	5
定着支援 (人)	4	6	6	8	10	9
協力企業 (社)	12	11	10	10	10	11
平均工賃月額 (円)	8,768	6,626	8,740	8,480	7,300	8,360

介護・事業課	障がい者支援事業
事業名	障害者就労継続支援B型事業（ま・めぞん）
経理区分	障害者就労支援事業特別会計/就労継続支援事業

目的と概要 一般就労が困難な障がい者に働く場を提供するとともに、社会生活に必要な能力向上を目的とした訓練を行います。事業所は「豊科たんぼぼ」、「堀金かえでの家」に加え、手作り豆腐の製造販売を中心に行う「ま・めぞん」を平成25年5月にオープンしました。将来的には利用者と雇用契約を結び、かつ最低賃金を支払うことが義務づけられた「就労継続支援A型事業所」への移行を目指して事業を展開します。

（主なものを1つ）

26年度目標	下半期を目途に豆腐販売数月平均 200 丁以上、利用者の平均時給 400 円を達成します。
26年度実績	1日平均販売数 99.3 丁/日(4月)→133.4 丁(9月)→(3月)129.4 丁
主な成果	販売先を増やし、月曜日を除く毎日を移動販売車 2 台体制としました。
主な課題	消費税増分の値上げや、経費管理を十分に行わなかったことなどにより、販売増分を十分に工賃に反映できませんでした。今後は経費及び収益を適切に管理しながら事業活動収支をベースとした効率的な経営を行ない工賃アップを図る必要があります。体制面の限界があるため移動販売によらない販売数の増加、営業面の強化を図る必要があります。

「ま・めぞん」の利用延人数他

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
利用延人数（人）	--	--	--	1,755	2,205	1,994
豆腐製造数（丁）	--	--	--	22,941	44,931	31,773
売上合計（円）	--	--	--	5,663,940	10,535,000	7,190,820
平均工賃月額（円）	--	--	--	20,164	33,670	27,668
平均時給（円）	--	--	--	222	360	297

介護・事業課	障がい者支援事業
事業名	障害者就労継続支援B型事業 (豊科たんぼぼ、堀金かえでの家)
経理区分	障害者就労支援事業特別会計/就労継続支援事業

目的と概要 一般就労が困難な障がい者に働く場を提供するとともに、社会生活に必要な能力向上を目的とした訓練を行います。「豊科たんぼぼ」及び「堀金かえでの家」は、利用者が「できること」を活かし、助け合いながら、クッキー、装飾ろうそく、手芸・工芸品等のオリジナル商品の製造・販売や喫茶コーナー、清掃・洗車及び企業からの受託事業等に従事して収入を得ています。また、「働く」ことだけではなく、各々の「暮らし」を豊かにするための知識やスキルを習得することも目指しています。

(主なものを1つ)

26年度目標	豊科たんぼぼ:現在の室内作業を見直してやる気と効率をアップします。 堀金かえでの家:利用者の「稼ぎたい」気持ちを顕在化させます。
26年度実績	豊科たんぼぼ:利用者さんの担当作業を明確にしました。 堀金かえでの家:月2回の学習会を実施しました。
主な成果	豊科たんぼぼ:仕事への意識が高まり、作業の開始も早くなりました。 堀金かえでの家:仕事に対する具体的な目標を持つ方が増えました。
主な課題	豊科たんぼぼ:多くの製品の在庫を抱えてしまっています。販売先の開拓が課題です。 堀金かえでの家:なりたい自分像を描ける環境づくりを進めます。

「豊科たんぼぼ」・「堀金かえでの家」の利用延人数及び平均工賃月額

事業所名及び項目	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
豊科たんぼぼ						
利用延人数(人)	3,527	4,630	4,814	4,583	4,340	4,744
平均工賃月額(円)	13,796	13,397	14,846	17,394	13,821	17,875
堀金かえでの家						
利用延人数(人)	3,234	3,431	3,423	3,244	3,655	3,485
平均工賃月額(円)	10,602	12,524	13,326	14,922	15,445	17,419

介護・事業課	障がい者支援事業
事業名	地域活動支援センター事業 (穂高わたぼうし、三郷すみれの郷、明科ふきぼこの家)
経理区分	障害者就労支援事業特別会計/地域活動支援センター事業

目的と概要 障がい者が「身近で安心して過ごせる場」で、障がいの程度に合わせて必要な医療的ケア又は日常生活のケアを受けながら、作業活動、余暇活動及び地域との交流等を行う事業です。利用者の「できること」を活かし、「やりたいこと」を尊重して、仲間と楽しく豊かな時間をつくるとともに、生活技能や社会性の習得、さらには社会参加の機会を提供することが目的です。また、手工芸品等の自主製品の販売収入は工賃として利用者に支給されます。

(主なものを1つ)

26年度目標	地域社会との交流や社会参加の機会を拡充します。
26年度実績	日常的な散歩や製品の納品等の機会をとらえ積極的に地域に出かけると共に地域のイベントへ参加しました。
主な成果	ボランティアの関わり等、地域の人との交流が日々の活動に繋がってきています。
主な課題	それぞれの事業所の製品や活動など、地域との交流や社会参加に繋がる情報発信が必要です。

地域活動支援センター利用延人数 (人)

事業所名	H22	H23	H24	H25	H26目標	H26
穂高わたぼうし	2,326	2,558	2,988	2,883	3,000	2,683
三郷すみれの郷	1,667	1,807	1,646	1,531	1,500	1,409
明科ふきぼこの家	2,212	2,147	2,248	1,890	2,562	1,891

介護・事業課	障がい者支援事業
事業名	障害者生活介護/児童発達支援/放課後デイサービス事業 (ほっぷライフ他)
経理区分	一般会計/障害者生活介護事業

目的と概要 介護が必要な障がい者(児)を対象としたデイサービスで、「障害者生活介護」は18歳以上、「児童発達支援」は未就学児童、「放課後等デイサービス」は就学中の障がい児が対象です。「ほっぷライフ」ではこれらのサービスを一体的に運営しています。看護師配置を手厚くし、かつ介護スタッフの専門性を高めることにより、医療的ケアが必要な重度の障がい者(児)を積極的に受け入れています。また、安全を確保した上で「ほっぷライフならではの」楽しい活動や外出等のメニューを揃えています。

(主なものを1つ)

26年度目標	ショートステイの開設に向けた準備をします。
26年度実績	職員異動等の影響により思うようには進みませんでしたが、28年度からの開設に向けた具体案の策定に至りました。
主な成果	相談支援事業所、他事業所との情報交換によりショートステイのニーズの高さについて、改めて確認できました。
主な課題	社協内での合意形成、人員の確保等多くの課題が残ります。

「ほっぷライフ」利用延人数 (人)

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
生活介護	3,296	3,233	3,244	3,198	3,300	2,975
放課後デイ	762	760	1,215	1,290	1,900	1,435
児童発達支援	329	672	530	642	100	710
合計	4,387	4,665	4,989	5,130	5,300	5,120

介護・事業課	障がい者支援事業
事業名	障害者居宅介護事業（障害者・児ホームヘルプサービス）
経理区分	一般会計/障害者居宅介護事業

目的と概要 障がい者(児)を対象としたホームヘルプサービスで、市内 3 か所(北部・南部・東部)のホームヘルプステーションにおいて、介護保険の訪問介護事業と一体的に運営しています。相談支援員や行政担当者は勿論、社協の地域福祉課とも連携し、利用者及びその家族の生活課題を「つかみ」、課題解決へ「つなぐ」ことにより、「どんな障がいがあっても、安心して、その人らしく暮らせる地域づくり」に貢献します。

(主なものを1つ)

26年度目標	社協内外の社会資源を把握し、関係者及び関係機関との連携を強化することにより利用者へのより良い支援につなげます。
26年度実績	法人外の障害福祉サービス事業所や介護保険事業所等との連携に努めました。また行政担当者とも連携し、突発的な支援依頼にも柔軟に対応しました。
主な成果	ニーズに応じた支援の実現で、本人及び関係者の高い評価を受けました
主な課題	利用頻度の高い利用者から訪問するヘルパーを限定されるため、少数のヘルパーへの負担過重になっています。

障害者(児)ホームヘルプサービス利用延時間 (時間)

事業所	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
北部ヘルパ-	2,488	1,790	1,790	1,867	2,000	1,952
南部ヘルパ-	3,330	3,179	3,550	4,164	4,500	4,638
東部ヘルパ-	2,732	1,829	2,448	2,296	2,400	2,386
合計	8,550	6,798	7,788	8,327	8,900	8,976

介護・事業課	その他の事業/高齢者支援事業・障がい者支援事業
事業名	福祉有償運送サービス事業（STS）
経理区分	一般会計/生活支援介護予防事業/(外出支援)

目的と概要 介護保険制度で認定された要介護者及び障がい者の内、非課税者を対象とした通院支援が主な目的とし、認定研修を修了したホームヘルパーが運転（病院と自宅の送迎）と必要な介助をセットで行うサービスです。
安曇野市福祉有償運送運営協議会において決定された運行規則に従って運営されており、現在は明科地区の対象者に限定して実施し、利用目的は透析通院の介助が最多となっています。

（主なものを1つ）

26年度目標	事業のあり方を再検討するため、利用実績と必要経費及び利用者状況等、正確な実態把握を行います。
26年度実績	サービス提供に伴う必要経費の算出を厳密に行いました。
主な成果	事業実施に伴う実態に即した必要経費を把握する事ができました。
主な課題	事業目的と運営状況及び必要経費を勘案し、事業のあり方について判断が必要です。

福祉有償運送サービス事業利用延時間（時間）

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
利用延時間	207	884	473	301	400	264

介護・事業課	その他の事業/受託事業/介護者支援事業
事業名	家族介護者交流事業（介護者リフレッシュ）
経理区分	一般会計/生活支援介護予防事業

目的と概要 市内の家庭介護者を対象に、介護者相互の交流等を通して情報交換やリフレッシュができる機会を提供します。25年度までは年1回、全市を対象に実施してきましたが、より身近な地域において当事者主体で継続できるような形をつくっていきます。

(主なものを1つ)

26年度目標	これまで実施してきた日帰りの保養交流会に加え、支所等の身近な場所での交流会が住民主体で開催されるよう支援します。
26年度実績	地域福祉との連携強化の為、各支所地域福祉係も同席し参加者のニーズ把握に努めました。
主な成果	昨年度の事業後に発足した自主的な介護者の集いが、穂高、豊科地区で両支所地域福祉係のサポートにより継続開催されています。
主な課題	穂高、豊科以外の地区でも、介護者の自主的な集いが開かれるような働きかけが必要です。



グループ討議の様子。ケアマネジャー、各支所地域福祉係職員が参加し、参加者の話に耳を傾けました。

介護・事業課	その他の事業/地域貢献/人材育成
事業名	初任者研修講座の開催
経理区分	公益事業特別会計

目的と概要 全国的に介護を担う専門職が不足する中で、平成 24 年度まで継続開催してきた「訪問介護員(ホームヘルパー2 級)養成講座」は、25 年度より介護専門職のキャリア体系整備の一環として「介護職員初任者研修」となり、当会においても引き続き開催しています。市内にお住まいの方で、資格取得後に市内の介護サービスに従事する意志のある方を対象として、市内における介護職の育成に貢献するとともに、社協の職員が講師及び実習指導の大部分を務めることにより、職員のスキルアップも図ります。

(主なものを1つ)

26 年度目標	テクニックや知識だけではなく、意欲を持って介護職に就く受講生を育成します。
26 年度実績	H26 年 9～11 月に開講し、17 名の受講者全員が修了する事ができました。
主な成果	当介護職員による講義で業務への理解を深めていただいた結果、多くの市内福祉施設への就労に結びつきました。
主な課題	介護現場の担当職員による講師のため、現場業務との調整や不在時の職員補充が必要です。

講座修了者数 (人)

項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
修了者数	15	20	20	12	18	17

介護・事業課	その他の事業/介護予防・生活支援事業
事業名	介護予防・生活支援事業
経理区分	一般会計/法人運営(介護・事業課)/地域福祉事業

目的と概要 できる限り住み慣れた地域で、最期まで尊厳をもって自分らしい生活を送るため、「地域包括ケアシステム」を構築していくことが求められています。生活支援と介護予防は重要な構成要素です。これを地域の実情に合わせ、効果的かつ効率的に実施できるよう、予防通所介護と予防訪問介護が平成27年度から段階的に地域支援事業に移行することが厚労省から示されています。地域の力を活かした社協らしい事業展開、地域への働きかけについて、方向性を定め、提案します。

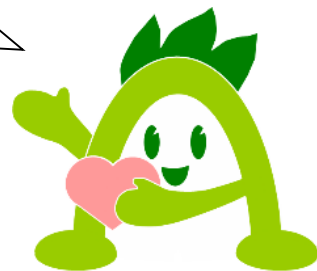
(主なものを1つ)

26年度目標	8月末までに社協提案書(原案)を策定し、市と協議します。
26年度実績	課を超えたプロジェクトチームを定期的開催し、検討を行いました。具体的内容は国の方向性を見極めた上で固める必要があると判断し、策定期限を延ばし、継続検討しています。
主な成果	概ねの方向性を確認し、安曇野市介護保険等運営協議会に委員意見として社協の取り組みを提案しました。
主な課題	平成29年度当初の実施に向け、具体的な事業の細部の検討が必要です。

総務課

- 1 理念「支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」を実現するために必要な人材を育成します。
- 2 人材育成を当会の**最重要課題**に位置付けます。
- 3 育成の対象は**すべての職員**です。
- 4 職員が**自ら成長**するためのシステムを構築します。
- 5 職員の**持ち味**を生かします。
- 6 職員の**自信とやる気**を引き出します。
- 7 職員の**チームの一員としての成長**を支援します。
- 8 職員の専門性のみならず、**社会的・人間的な成長**を支援します。
- 9 個の成長と職員相互の相乗効果による、**組織としての成長**を図ります。
- 10 自ら学び、部下・後輩を育て、互いに成長しようとする**風土**を形成します。

これが社協の人材育成の基本方針です！



総務課	法人全体/長期計画の策定
事業名	「将来構想と10カ年戦略」の策定
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 当会の理念「支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」の実現に向けた将来構想(長期目標)を描き、長期目標の達成に向けた継続性・実効性のある短期・中期計画を策定・実行し、PDCAサイクルを積み重ねていく、そんなスタイルを確立していくことが目的です。職員のアイデアを反映させながら、課長会議で原案を策定していきます。

(主なものを1つ)

26年度目標	26年度終了までに課長会議を経て原案を策定し、年度内の経営会議に諮ります。
26年度実績	検討時間が確保できず、26年度は草案作成段階までとなりました。
主な成果	9月下旬から草案の集中審議が始まりました。
主な課題	27年度早期に策定し、職員間での共有が必要です。



総務課	人事/ワークライフバランス
事業名	ワークライフバランスのとれた職場の実現
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 職員一人ひとりが、やりがいを感じながら仕事の責任と役割をきちんと果たす一方で、子育て・介護の時間や家庭、地域、友人、趣味等に係る個人の大切な時間が確保できるように努め、仕事(ワーク)と生活(ライフ)の双方の調和を目指します。このような職場の実現により、あらゆるライフステージの職員が無理なく仕事が続けられて、より豊かな人生を営むことができること、ひいては当会の発展・地域福祉の推進に、より貢献できることが目的です。

(主なものを1つ)

26年度目標	事業所間及び職員間における残業時間の格差を縮小します。
26年度実績	月15時間未満の事業所は40/44(90.9%)でした。(25年度75%)
主な成果	前年度と比較して事業所間・職員間格差、全体平均とも改善しています。
主な課題	変形労働時間制の有効活用に工夫の余地があると考えます。

月平均残業時間及び平均年休取得率						
項目	H22	H23	H24	H25	H26 目標	H26
月平均残業時間 (時間)						
総合職	--	--	10.45	8.67	10時間未満	8.40
専門職	--	--	6.21	5.48	--	4.55
平均年休取得率						
総合職	--	--	39.5%	41.8%	50%以上	40.6%
専門職	--	--	57.0%	53.8%	--	58%
専任職	--	--	--	62.4%	--	62%

総務課	人事/人材育成
事業名	人材育成システムの策定
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 社協の理念実現、更にはその存続すらも、職員ひとり一人の行動のあり方に懸っているといっても過言ではありません。「支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」の実現のために必要な人材を育成し、効果的なチームプレーが展開できる環境を整えていくことが法人の最重要課題です。ここでは「めざすべき職員像=社協^{マン}人」や「求められる能力・態度」を明らかにした上で、職員が自ら、そして互いに成長できるような職場風土を形成していくことが目的です。

(主なものを1つ)

26年度目標	「人材育成システム 運用マニュアル」を管理監督者が理解します。
26年度実績	4月1日に施行し、5月に管理職研修を実施しました。
主な成果	同システム研修に続き「人材育成」をテーマとした管理者研修を2回開催しました。
主な課題	「めざすべき職員像」の共有及び人材育成システムの効果的な運用はこれからです。

わたしたちがめざす職員像「社協^{マン}人」とは、

「支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」の実現をめざすチームの一員としての自覚と責任を持ち、チーム目標の達成に向けて、各々の専門性、能力、経験、個性及び感性を大いに発揮します。また、何よりも健康と仲間を大切にし、互いに認め合い、支えあい、高めあって成長しようとする職員です。

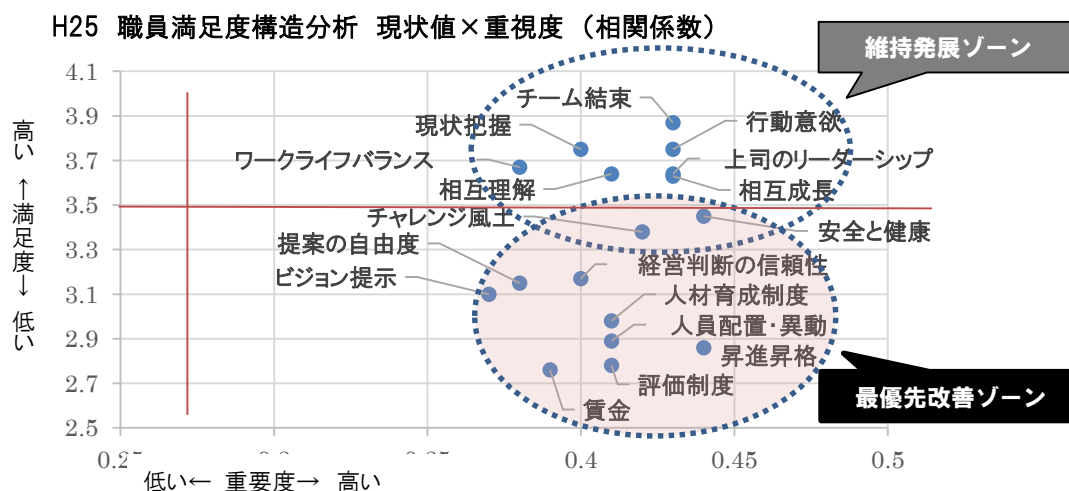


総務課	人事/就業規則
事業名	就業規則の見直し
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 信頼性と安心感の高い人事制度の確立を目指しています。厳しさを増す経営環境の中にあつて、持続可能であり、かつ、職員の納得性の高い制度や労働条件を整えていく必要があります。今回は、「職員満足度調査」の結果を尊重した上で、①人件費の伸びを抑えること、②経営状況の変動に対応できること、③雇用に対する不安感を解消すること、④職員相互の協力体制・チーム力を強化すること、⑤職員のやる気・満足度をアップすること等を目的として職員区分・賃金体系等を見直します。

(主なものを1つ)

26年度目標	年内に就業規則の見直し(案)を策定します。
26年度実績	実績なし。
主な成果	成果なし。
主な課題	「将来構想と10ヵ年戦略」におけるビジョン・基本戦略に基づいて検討する必要があり、今年度は課題抽出までを行いました。



総務課	財務/新会計基準
事業名	新会計基準への移行準備
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 平成 23 年 7 月 27 日に厚生労働省から「社会福祉法人会計基準の制定について」が通知され、新たな基準による会計処理が平成 24 年 4 月 1 日から適用されました(猶予期間は平成 27 年 3 月 31 日まで)。当会では、平成 27 年度当初予算編成からの適用に向けて、準備中です。

(主なものを 1 つ)

26 年度目標	26 年度中に新会計基準移行準備をすべて完了します。
26 年度実績	勘定科目、拠点区分及び経理規則の改定を行いました。
主な成果	移行準備スケジュール通りに作業を進め、移行準備を完了することができました。
主な課題	新しいルールに則った適正な経理を行うことができるよう、その仕組みづくりを進めていく必要があります。



総務課	情報マネジメント/情報発信
事業名	ホームページの見直し
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 当会のホームページは社協合併の翌年、平成18年度に開設しました。平成20年度のリニューアルを経て、26年度には8年目となります。インターネットを介した情報のやりとりが早い速度で進化し続ける時代の中で、社協と地域の住民を「つなぐ」大切なツールとして、ホームページのあり方を常に見直していくことが求められています。

(主なものを1つ)

26年度目標	ターゲットの裾野を拡げるため、まずは社協関係者・利用者のホームページへの関心を高めます。
26年度実績	主な行事日程、児童館予定、義援金情報・求人等を随時更新しました。
主な成果	トップページでイベント情報等がリアルタイムに把握できるようになりました。
主な課題	事業所毎の紹介ページを更に充実させます。

ホームページについて
皆様のご意見・ご要望
をお待ちしております。



総務課	リスクマネジメント/安全衛生
事業名	労働安全衛生マネジメントシステムの推進
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 職員の安全と健康は当会の最優先すべきテーマです。当会の「労働安全衛生マネジメントシステム」及び当該システムの運用マニュアルは、平成 25 年 10 月に運用をスタートしました。その目的は、すべての職員がルールを守り、互いに協力して、安全衛生活動を自主的に展開することにより、労災ゼロ、心とからだの健康の保持増進、ひいては誰もが気持ち良く働くことができる職場環境を実現することです。

(主なものを1つ)

26 年度目標	「労働安全衛生マネジメントシステム」の運用を推進します。
26 年度実績	長野労働局より「安全衛生管理指定事業場」に指定され、年間計画に基づいて活動を実施しました。
主な成果	大町労基署の指導の下、メンタルヘルス、車両事故防止、転倒災害防止等の分野で活動を強化しました。
主な課題	「点検・評価」を行うためには、事業場の負担感に考慮する必要があります。

安全衛生の基本方針

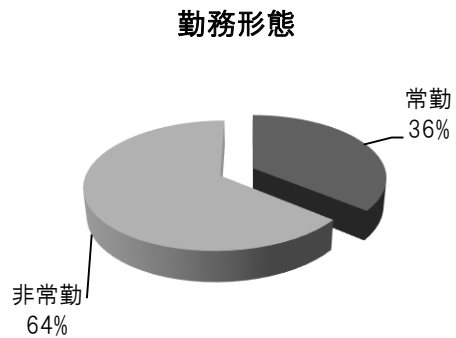
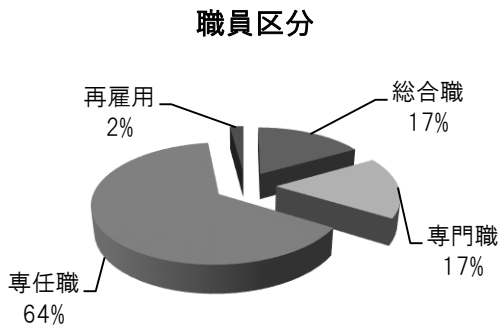
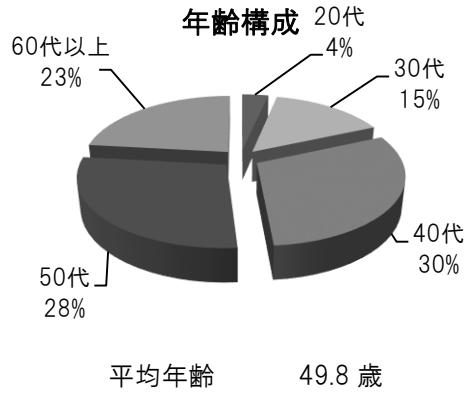
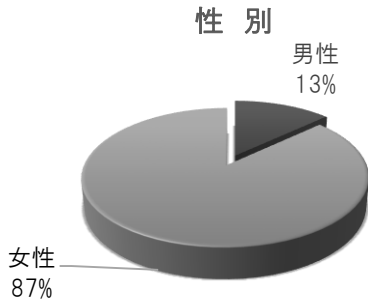
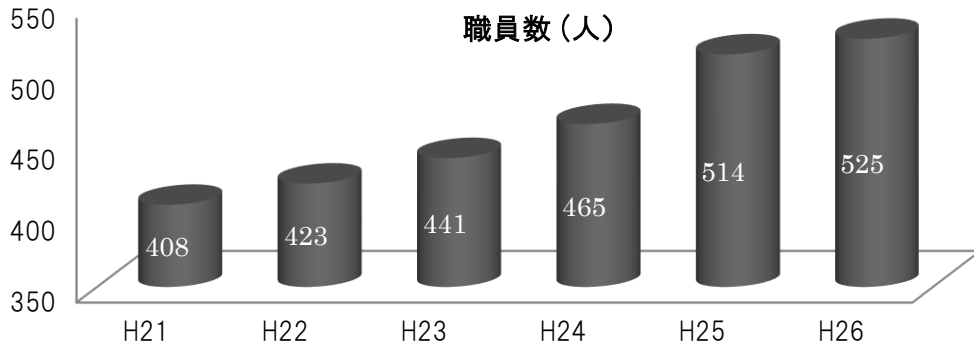
職員の安全と健康は、当会の最優先テーマです。

すべての職員が、ルールを守り、互いに協力して、安全衛生活動を自主的に展開することにより、労災ゼロ、心とからだの健康の保持増進、ひいては誰もが気持ちよく働くことができる職場環境を実現します。

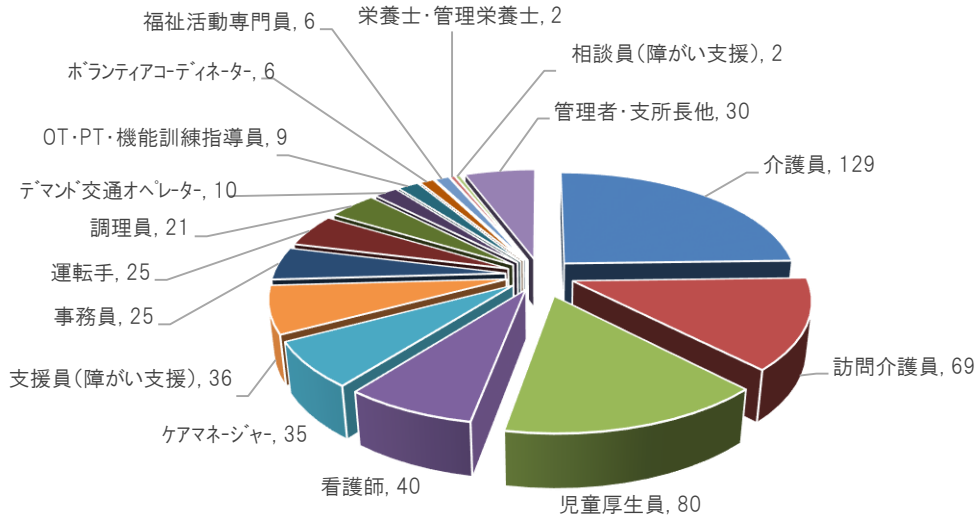


※数値は平成 27 年 3 月 31 日現在

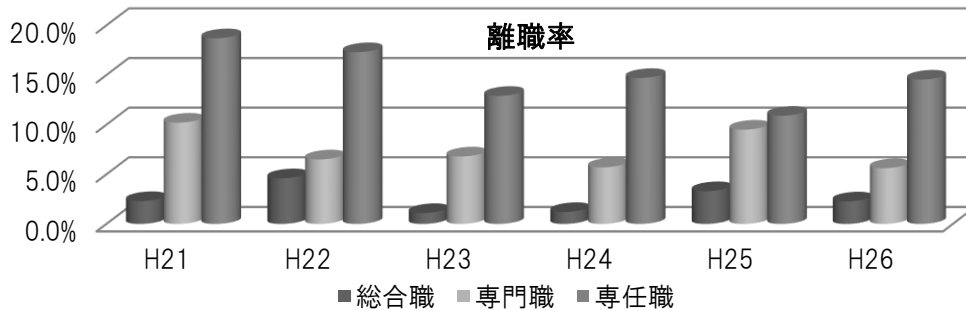
※全国平均は、介護労働安定センター（平成 25 年度データ）による



職種別の人数



離職率



平均賃金

当会職員の平均給与月額				
項目	総合職	専門職	専任職	再雇用
基本給	251,326	199,049	92,322	198,373
支払額計	279,688	210,065	95,978	210,842

全国の介護労働者(月給者)の平均賃金				
項目	全体	訪問介護員	介護職員	看護職員
平均賃金	212,972	188,208	194,709	262,472

DATA

その他データ（労働災害）

事業別 労働災害の発生件数（件） ※（ ）内は休業4日以上的人数

係名	H22	H23	H24	H25	H26
地域福祉・総務・介護	0	0	1	0	1
子育て支援	1	3	1	2	6(1)
居宅介護支援	1	0	1	2	0
通所介護	7	5	5	3	6(2)
訪問入浴	--	--	--	0	0
訪問介護	3	1	1	4	1
訪問看護	0	0	0	0	0
障害者支援	1	2	3	2	3(1)
合計	13 (5)	11 (5)	12 (4)	13 (2)	17(4)

支所別 労働災害の発生件数（件） ※（ ）内は休業4日以上的人数

支所名	H22	H23	H24	H25	H26
本所	1	0	2	2	0
豊科	2	7	6	3	6(1)
穂高	0	1	0	6	3(1)
三郷	4	2	2	0	4(1)
堀金	3	0	1	1	1(1)
明科	3	1	1	1	3
合計	13 (5)	11 (5)	12 (4)	13 (2)	17(4)

労働災害の種類別発生件数（件）

内容	H22	H23	H24	H25	H26
車両事故	0	1	3	1	0
転倒事故	3	4	3	3	2(1)
腰痛	1	2	2	2	5(2)
その他	9	4	4	7	10(1)
合計	13(5)	11(5)	12(4)	13(2)	17(4)

事業別 車両事故発生件数（件） ※（ ）内は人身事故の発生件数					
係名	H22	H23	H24	H25	H26
地域福祉・総務・介護	3	2	3	4	0
子育て支援	0	0	0	0	2(2)
居宅介護支援	4	2	4	7	9(1)
通所介護	17	13	16	17	14(2)
訪問介護	12	10	10	4	6(1)
訪問入浴	0	0	0	0	2
訪問看護	1	0	1	0	0
障害者支援	6	0	2	3	8
その他・不明	1	0	1	0	1
合計	44 (2)	27 (4)	37 (5)	35 (3)	42(6)

支所別 車両事故発生件数（件） ※（ ）内は人身事故の件数					
支所名	H22	H23	H24	H25	H26
本所	5	4	6	9	9(1)
豊科	6	2	4	5	12(1)
穂高	4	0	6	4	4(2)
三郷	10	8	4	7	4
堀金	6	3	4	3	7(2)
明科	13	10	13	7	6
合計	44 (2)	27 (4)	37 (5)	35 (3)	42(6)

※ 人身事故の概要

Case1	訪問介護：ヘルパーが訪問移動中、信号待ちで停車中に後続車に追突された。
Case2	居宅介護支援：ケアマネが訪問移動中、交差点停車中の前方車両に追突してしまう。
Case3	子育て支援：通勤途中、低速走行中に道路脇から飛び出した自転車に衝突する。
Case4	通所介護：通勤途上で停止準備の減速中に後続車に追突された。
Case5	通所介護：利用者に乗せて送迎中、対向車との擦れ違いの際に接触した。
Case6	子育て支援：通勤途中、一時停止発進直後に左から走行してきた車と衝突した。

事業別 車両以外の事故発生件数(件)		※()内は当会の損害賠償の発生件数			
係名	H22	H23	H24	H25	H26
地域福祉・総務・介護	2	4	0	4	3
子育て支援	18	13	8	9	18(0)
居宅介護支援	0	1	2	1	0
通所介護	26	20	32	29	25(1)
訪問介護	2	7	5	7	6(1)
訪問入浴	0	1	0	0	0
訪問看護	0	0	0	0	2(1)
障害者支援	6	6	1	4	2(1)
その他	2	2	0	0	0
合計	56 (4)	54 (10)	48 (5)	54 (7)	56(4)

※ 事故例（損害賠償が発生した2事例）

Case1	訪問看護係：利用者宅の玄関でスロープを収納する際に傘立てを破損してしまう。
	再発防止策：利用者及家族と相談し、傘立ての位置変更及び収納時の協力をお願いした。
Case2	障がい者支援：大豆畑の草刈り作業時に小石が飛んで駐車中の車両を傷つけてしまう。
	再発防止策：草刈り機使用時には声を掛け合い、周囲の状況を確認しながら作業をします。
Case3	訪問介護：調理後の洗い物でフライパンのガラス蓋を割ってしまう。
	再発防止策：マニュアルどおりに行うことを確認。
Case4	通所介護：特殊浴槽で入浴介助中、ストレッチャーの手すりを外れて床に転落した。
	再発防止策：詳解マニュアル(特浴編)を修正し、2名介助及び器具操作確認を徹底する。

事業別 苦情発生件数（件）						
係名	H21	H22	H23	H24	H25	H26
地域福祉・総務・介護	7	4	6	9	7	10
子育て支援	1	2	3	2	1	0
居宅介護支援	1	3	5	3	2	2
通所介護	6	3	4	5	4	3
訪問介護	3	1	4	2	1	4
訪問入浴	0	0	2	0	0	0
訪問看護	0	0	0	0	0	0
障害者支援	1	6	4	5	0	1
その他	0	1	0	0	1	0
合計	19	20	28	26	16	20

※ 苦情の内容

Case1	総務係：「広報誌あづみん」の字が小さくて読みにくい。
	対応： 字の拡大が困難であったため、写真が多く、文字数が少ない紙面づくりに努めた。
Case2	地域福祉：「しあわせ・あづみん」の利用者・依頼者間の、同サービス以外の仕事に係るトラブル
	対応： 依頼内容以外のニーズ発生時には、社協支所に連絡する旨を全支所で統一した。
Case3	居宅介護支援： 利用者の家族から、担当者の連絡先を電話で尋ねた際の対応の悪さを指摘。
	対応： 相手の言動の背景にある真のニーズをアセスメントする基本姿勢を皆で再確認した。
Case4	訪問介護： 歩行中にスピードを出した社協の車に水を撥ねられた。
	対応： 「社協走り」を係内で再確認し、本所から全支所宛に注意喚起メッセージを発信した。
Case5	地域福祉：窓口対応した職員の言葉づかいが乱暴だった。
	対応： 係内で窓口対応について省みるとともに、適切な言葉づかいについて確認した。
Case6	地域福祉：「しあわせ・あづみん」の利用者・依頼者間の、同サービス以外の仕事に係るトラブル
	対応： 依頼内容以外のニーズ発生時には、社協支所に連絡する旨を全支所で統一した。
Case7	通所介護： 職員と親族関係にある利用者の事を、その職員が自分の家族に話してしまった。
	対応： 職員会で個人情報保護ルールを再確認し、本所から注意喚起情報を全支所に発信した。

Case8	地域福祉： 介護保険認定調査員の調査方法や説明の仕方に対する不満。
	対応： 市担当課に伝え、認定調査結果に対する不服申し立ての案内確認を依頼した。
Case9	通所介護： 担当者会議での職員の発言は、まるで家族が責められているような感じだった。
	対応： 謝罪と反省に終わらず、「聴く力」と「伝える力」を身につける教育を法人として実施する。
Case10	地域福祉： 相談に対して「調べてみる」といったまま何か月も連絡がなく「見放された」感じだ。
	対応： すぐに面談する。今後のケースに「いつでも相談に応じる姿勢」を伝える旨、内部確認する。
Case11	居宅介護支援： 入院中の家族を担当したケアマネは人の話を聞く耳を持たず、何の連絡もない。
	対応： 入院中であっても、在宅の方針になったらいつでも相談可能な状況をつくっておくこと。
Case12	総務係： 「広報誌あづみん」が政治的広報物と一緒に配布されていた。
	対応： 配布委託先に政治・宗教等の広報物と配布時期を極力ずらすよう依頼した。
Case13	通所介護： デイの機能訓練後に痛みが出た。病院のリハビリと連携をとってやってほしい。
	対応： 病院リハビリとの連携もあったが、今後は情報収集の範囲を更に拡大したい。
Case14	地域福祉： デマンド交通の運転手は道を譲らなかつたり運転が危険で態度が悪すぎる。
	対応： タクシー会社(運転手はタクシー会社の社員)に改善要望を出し、接遇研修も継続する。
Case15	地域福祉： 社協会費は集めるのが大変で職員がすべきだ。使途も明らかでないので報われない。
	対応： 会費の使途をわかりやすく広報誌に掲載し、福祉のまちづくりに役立っていることをPRする。
Case16	訪問介護： 利用者の家族情報を、ヘルパーが自分の家族に話したようだ。
	対応： 個人情報保護ルールハンドブックを基に内部研修を実施し、訪問計画自体も見直した。
Case17	訪問介護： 洗濯サービスに訪問したヘルパーの不慣れな技術と心無い言葉に対する家族の怒り。
	対応： 操作マニュアルの確認は勿論、プロとしての態度を係全体で省みた。
Case18	訪問介護： 入浴介助後、風呂場の水が出しっぱなしであった。
	対応： 水道栓切替確認をはじめ類似のリスクを洗い出し、最終確認の徹底を全員で確認した。
Case19	障がい者支援： 利用者の家族から「事業所に何回電話をしても出ないのはおかしい」との苦情。
	対応： 営業時間前の除雪作業中であったが、留守録又は転送サービスを検討する。
Case20	総務： 「広報誌あづみん」の郵便受け投函方法が不十分で、隙間から冷風が吹き込んでいた。
	対応： 配布委託先に伝え、投函方法の指導徹底を約束してもらう。

DATA

その他データ（検診・研修・広報・役員会等）

*26年度は概ね事業計画どおりに実行されています。

検診等の実施状況

検診等	実施期間・回数	会場	対象
基本健診	8/1～9/18 (6回)	本所・各支所	全職員
乳がん検診	8/26～9/11 (3回)		女性職員
子宮がん検診	7/4～7/17 (2回)		女性職員
インフルエンザ予防接種	11/25～12/5 (5回)		全職員
産業医の面接指導	12/15～12/25 (4回)		該当者

法人内職員研修の実施状況(総務課主催のみ)

研修名	開催日	会場	対象
新任職員研修	4/1、10/1	堀金支所	新任職員
新年度研修	4/14～18	各支所・ふれあいホール	全職員
人材育成システム研修	5/15	堀金支所	主任以上
リーダー・コミュニケーション研修	6/20	堀金支所	主任以上
リーダー・コーチング研修	7/18	堀金支所	主任以上
コンプライアンス研修	12/18.19	本所	主任以上
人事労務管理研修	12/18.19	本所	係長以上
新会計基準移行に係る研修	27年度予定		主任以上

広報誌等の発行状況

種類	発行状況
社協だより あづみん (10頁版)	偶数月 51～56号
あづみん お知らせ版	奇数月
会内報 あづみんの「わ」	第6～10号

役員会等の開催状況（計画どおり）

会議名	開催日	会場
理事会	5/27、11/27,3/25	本所
評議員会	5/30、11/28,3/27	堀金
経営会議	第1回～9回	本所